

JAEF REPORT

平成25年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 公益財団法人2年目を迎えて
- ◆ 平成24年度講師派遣：過去最多記録
- ◆ 平成25年度講師派遣募集開始

- ◆ 平成25年度自動車教育用教材公募予定
- ◆ 平成24年度自動車用教材活用結果
- ◆ 国内調査を実施

公益財団法人2年目を迎えて

財団運営

財団は、公益財団法人として第3回目となる理事会を、3月14日に芝パークホテルにて開催した。同理事会では平成24年度の事業進捗状況が報告されると共に、平成25年度の事業計画・収支予算案が承認された。これを踏まえて、財団は公益財団法人2年目となる平成25年度も「社会と自動車のより良い関係を形成」すべく、「高等学校における自動車及び交通に関する教育支援」に取り組む所存である。

平成24年度においては、関係諸団体・企業の皆様のご支援により、ほぼ計画通りに事業を展開することができた。技術教育支援事業では、東北・中部・近畿地区の15府県303校を対象に自動車技術教育用教材の公募を行い、92校を対象に教材の提供を行った。これで、平成4年からの提供校累計は1,355校となった。また、担当教諭の技術知識や指導能力向上支援の一環として、提供教材の取扱指導や、指導用DVD教材の提供等を実施した。また自動車教育推進協議会と連携して教材贈呈式・教育懇談会を全対象府県で開催し、そこでは教育関係者から機材提供に対する感謝の言葉と、継続支援を要望する声が多く寄せられた。

調査研究事業では海外調査を1回、国内調査を3回実施した。主にクルマと自転車の共存による交通安全に焦点を当てて調査を実施した結果、国内外の交通安全事例に関する多くの知見を得る事ができた。これらの調査結果に基づき、海外交通調査報告書や広報誌掲載の特集記事とコラム記事も合わせて作成した。また、先生方の要望に応じて、「交通」「環境」「交通安全」に関する副教材を約1,000冊提供した。

研修事業では、JAEF研修会（財団主催の研修会）を首都圏及び中国の2地域で合計4回開催した結果、計140名の高校教諭が受講し高い評価を得ることができた。また、講師派遣活動（県教育委員会や高校主催の研修会への支援）においては、全国から多くの申し込みがあり、講師派遣件数は前年度を上回る176件に達した。また受講した教職員・生徒も約76,000名となり、派遣件数・受講人員共に過去最多を記録した。



▲第3回理事会の様子

普及啓発事業では、高校教諭を対象とした広報誌『Traffi-Cation（トラフィックーション）』を3回発行し、高等学校における自動車教育に対する理解促進と財団活動に対する認知向上に努めた。また同誌の全国5,900校への毎号配布を継続するとともに、高校教諭に対する個別提供の拡大を進め同誌のさらなる普及拡大に努めた。さらに、広域普及啓発活動としてホームページ、ニュースリリース、定期報告書等の多様なメディア展開を図り、教育関係者に対して自動車教育並びに財団活動に関するタイムリーな情報発信を行った。

これらの実績により自動車教育を一歩進めることができたと思われる。しかし一方では、教育懇談会にて一部の先生から「クルマに対する生徒の関心が低下している」という声が寄せられたり、財団主催研修会に参加された先生方から、「自動車の最新技術についてもっと知りたい」という要望を受けたしている。

財団は、これらの教育関係者からの反響・要望等も踏まえて事業活動を見直し、25年度の事業計画では自動車教育を更に前進させるべく取り組む所存である。ついては、引き続き、関係団体・企業の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

INFORMATION

4～6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5月～6月
- 平成25年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 5月下旬
- 平成25年度JAEF研修会参加者募集開始 6月上旬
- 平成25年度講師派遣を実施 4月～6月

平成24年度講師派遣:過去最多を記録

研修

財団は、平成24年度に各県の教育委員会や教育研究会、高等学校などの要請を受け、下表の通り39都道府県で176件（23年度：124件、以下（）内は23年度の実績）の研修会への講師派遣を実施した。その結果、24年度の研修会への参加者合計は約76,002名（51,897名）に上り、派遣件数・参加者数共に過去最多となった。

これら176件の研修会の内訳を見ると、社会科系・生徒指導担当の先生方や生徒を対象とした「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修会は159件で、昨年（108件）より51件増加した。派遣実績は、「危険予知」が82件、「クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全」が41件、「自転車と交通安全について」が26件など、大半が「交通安全」に関するものであったが、「環境」のテーマについても2件の派遣が行われた。

一方、工業系の先生方を対象とした自動車の「整備技術」「最新技術」に関する技術研修会は17件と、昨年（16件）を1件上回った。派遣実績は、「ハイブリッド車」関係が9件（10件）、「電気自動車」関係が4件（1件）、新メニューの「SKYACTIV」が1件など、「最新技術」関係に集中したが、「整備技術」についても、2件の派遣が行われた。

開催評価については「大変良い」「良い」が、89%となり、大変好評であった。

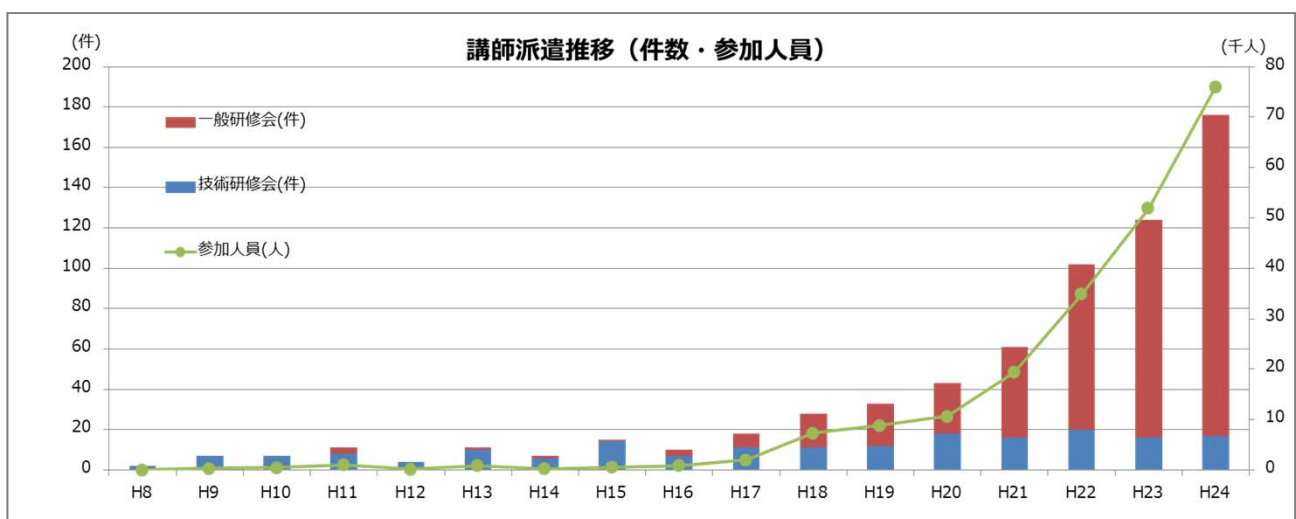
講師については、176件のうち、172件を地元の推進協議会メンバーが担当された。講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



▲千葉県立東金高等学校での講師派遣の様子



▲神奈川県高等学校教科研究会での講師派遣の様子



	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
技術研修会(件)	2	7	7	8	4	10	6	14	7	11	11	12	18	16	20	16	17
一般研修会(件)	0	0	0	3	0	1	1	1	3	7	17	21	25	45	82	108	159
研修会合計(件)	2	7	7	11	4	11	7	15	10	18	28	33	43	61	102	124	176
参加人員(人)	41	289	460	1,030	200	850	241	568	861	1,970	7,298	8,868	10,636	19,429	34,875	51,897	76,002

平成25年度講師派遣公募開始

・・・2月27日

研修

財団は、平成25年度の講師派遣支援の申込要領を、2月27日付で全国の高校（約5,900校）へFAXで案内すると共に、教育関係団体（都道府県・指定都市等の教育委員会、全国工業高等学校長協会、全国高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国自動車教育研究会、全国公民科・社会科教育研究会）に送付した。

講師派遣の対象は、各地の教育委員会、教育研究会などが開催する研修会で、①自動車の「整備技術」「最新技術」に関する技術研修会、②「環境」「交通」「交通安全」に関する一般研修会である。

平成25年度の講師派遣研修メニューは、昨年同様14のままとしたが、さらなる普及を目指し、内容を一部改訂した。（詳細は下表のとおり）

また、派遣目標は、190件、78,000名（24年度実績は176件、76,000名）を予定している。

なお、講師派遣の申込期限は、派遣メニューの①～⑧を6月末、⑨⑩を9月末とし、⑪～⑭のメニューは常時受付としている。

関係団体・企業の皆様には、これまで以上に派遣をお願いすることが多くなると思われませんが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

【25年度・派遣メニュー一覧表】

区分	講師派遣 研修メニュー	研修内容	派遣対象	講師派遣元（予定）	
技術研修会	整備技術	① ガソリンエンジンの分解・組立	講演と実習（6～6時間）	研修会(教員)、学校(教員)	日本自動車整備振興会連合会
		② トランスミッションの分解・組立	〃	〃	〃
		③ 電子制御エンジンの構造と点検・整備	〃	〃	〃
	最新技術	④ トヨタ・ハイブリッド車について	講演（90～120分）	研修会(教員)、学校(教員・生徒)	トヨタ系ディーラー
		⑤ ホンダ・ハイブリッド車について	〃	〃	ホンダ系ディーラー
		⑥ マツダ・SKYACTIVエンジンについて	〃	研修会(教員)	マツダ(株)
		⑦ 日産・電気自動車について	〃	研修会(教員)、学校(教員・生徒)	日産自動車(株)
		⑧ 三菱・プラグインハイブリッド車について	〃	〃	三菱自動車工業(株)
一般研修会	環境	⑨ 地球温暖化防止と自動車技術	講演（90～120分）	研修会(教員)	日本自動車工業会・他
		⑩ ITSと未来の交通・まちづくり	〃	〃	ITS Japan・他
	交通安全	⑪ 危険予知による交通安全	講演（60～90分）	研修会(教員)、学校(教員・生徒)	日本自動車連盟
		⑫ クルマ・自転車・人がつくる道路交通と安全	〃	〃	〃
		⑬ 交通事故とその責任	〃	〃	日本損害保険協会
		⑭ 自転車と交通安全について	〃	〃	〃

平成25年度自動車教育用教材の公募予定

技術教育

財団では、自動車に関する技術教育支援のため、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟している高等学校を対象に公募を行い、広く実験実習用機材や自動車技術教材を無料で提供している。

教育用教材は視聴覚教材としてDVDや動く掛図など、初級教材として分解組立用エンジンや工具類、さらに中級教材としてエンジンテスターセット、トランスミッションなど、また上級教材として実車、エンジンベンチなどの実験実習用機材を用意し、学校からの応募内容を審査選考して提供している。

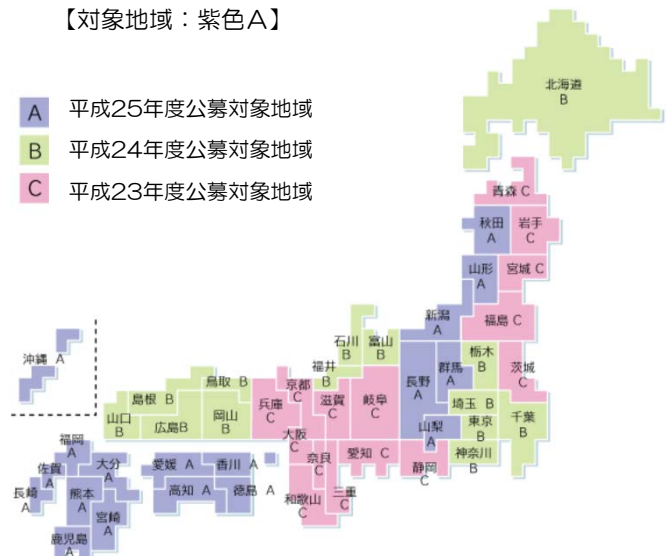
全国を3地域に分け、毎年14～18県の対象となる高等学校へ応募の案内を実施している。平成24年度は東北、中部、関西地区15府県、92校に自動車教育用教材を提供し、平成25年度は以下の県、日程で募集を行う予定となっている。

【日程】

5月下旬：募集要項案内
6月末：応募締切
8月上旬：教材提供校・提供教材決定
9～11月：教材提供

【対象地域：紫色A】

- A 平成25年度公募対象地域
- B 平成24年度公募対象地域
- C 平成23年度公募対象地域



【平成25年度公募対象県（18県）】

秋田、山形、新潟、群馬、長野、山梨、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

平成24年度自動車教育用教材活用結果

・・・ 3月末

技術教育

財団は、平成23年度に機材を提供した76校に対して、平成24年度の機材活用状況に関する調査票を2月に送付し、ほぼ全校から回答を得たため、このたび「平成23年度機材提供校の活用報告書」としてまとめた。

技術教育支援事業では、学校に対するフォローアップ活動として、機材提供した翌年の年度始に活用計画書を、年度末に活用報告書を提出していただき機材提供活動の参考としており、同報告書もその一環として、提供校での機材活用状況をまとめたものである。

提供校の活用報告書からは、視聴覚教材の「動く掛図教材」では、「教科書では動きが見られないが、この教材で動作が目で確認でき、分かり易く理解が深まり、その教育効果は非常に高い」と好評であった。

人気の高い「分解組立用エンジン（汎用）」では、「シンプルな構造の単気筒エンジンなので、構造が理解しやすく、生徒も比較的理解しやすい。本校は自動車科ではないので、実習時間が限られるため、エンジンの分解組立てを行う教材としては適切である」との意見を頂いた。

また、機材提供活動の継続への強い期待を述べた報告も多かった。財団は同報告書により、教育現場での提供機材活用状況を7月(予定)の技術教育部会に報告すると共に、自動車技術教育の一層の拡大につながるよう、技術教育支援事業の改善に取り組んでいく予定である。



▲北海道旭川実業高等学校での実習の様子



▲岡山県立岡山工業高等学校での実習の様子

国内調査を実施

・・・ 3月11日～12日

調査研究

財団は、「地方都市における公共交通のあり方」調査の一環として、3月11日から12日にかけて、岡山県総社市（人口約6万8千人の山間の市）におけるデマンド交通「雪舟くん*」を調査した。

地方都市において定時・定路線のバスが利用率の低下により採算性の悪化や自治体負担の増加がみられる中、デマンド交通は、利用者のニーズに応じて柔軟な運航を行う公共交通手段として全国的にも導入が広がっている形態である。

「雪舟くん」は、電話予約により、自宅から外出先へ、外出先から自宅へといったドア・ツー・ドアのサービス（相乗り型）を行い、料金は1回300円（行先によっては600円）とバス並みの料金となっている。2011年4月に運航開始され、現在では9台のワンボックスカーが登録されており、一日の利用者は約240名とほぼフル稼働の状態である。

利用者は高齢者が多く、主に市の中心部への買い物や病院への移動に利用されている。大型スーパーに来ていた高齢女性は、「主人が免許を返納して不便だったので、『雪舟さん』（“さん”と敬称で呼んでいた）には本当に助かっています」と感想を述べていた。

総社市役所の担当者は、「今の形態が完成形だとは思っていません。利用者の声を聴きながら常に改善を行っていきたい」と説明した。

この調査結果は、財団広報誌「Traffi-Cation」の特集で記事化し、全国の高等学校に展開する予定である。

*雪舟ゆかりの井山宝福寺が市内にあることから「雪舟くん」と名付けられた。



▲「雪舟くん」を利用して大型スーパーに来た利用者



▲市役所内のオペレーションセンター



▲「雪舟くん」内にはオペレーションセンターからの指示画面が表示されるモニターが設置されている。